

Hello! FUJISEI

No.33

「思っていたよりも少ない。ほかに収入がなくなるということからすると、これだけでは残りの人生をエンジョイするには足りないね」

先日「年金定期便」が届いた55歳の男性のお話です。年金定期便には、これまでの年金加入期間、老齢年金の見込額、これまでの保険料納付額と最近の月別状況が記載されていますが、その方の場合、61歳から特別支給の老齢厚生年金の支給が始まり、65歳からは老齢基礎年金+老齢厚生年金となるようで、「受け取れる公的年金の見込額が見えてくると、自分の老後は近いことが実感させられるよ」と話されていました。

厚生労働省は、「第5回中高年者縦断調査（中高年者の生活に関する継続調査）結果の概況」を発表しています。この調査は、団塊の世代を含む全国の中高年者世代の50～59歳

老後の準備はできていますか？

経済面はもちろん意識的準備も必要

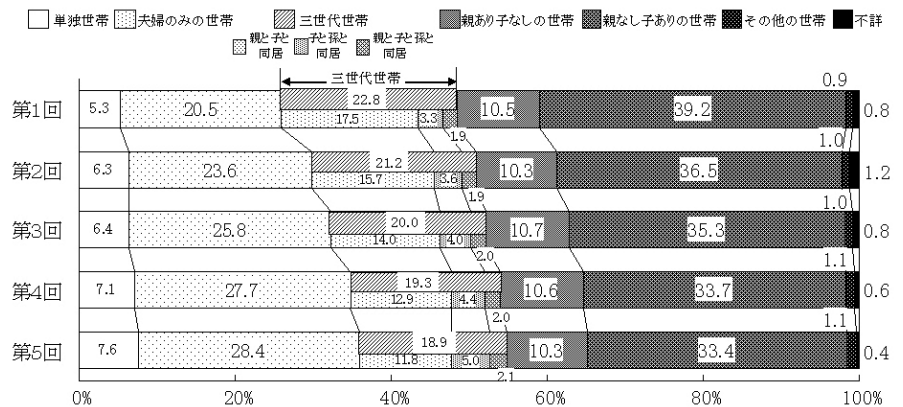
の男女を追跡して、意識面・事実面の変化の過程を継続的に調査しているもので、平成17年度を初年として実施しています（今回の調査における対象者の年齢は54～63歳）。

第1回から第5回までの同居者の構成をみると、「夫婦のみの世帯」は20.5%から28.4%と増加、「親なし子ありの世帯」は39.2%から33.4%、「三世帯世帯」は22.8%か

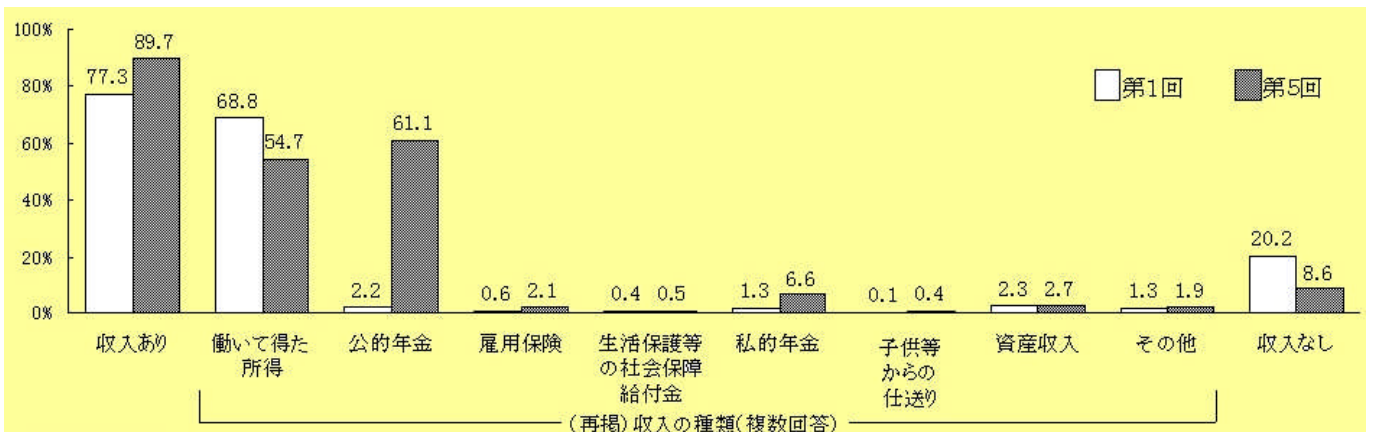
ら18.9%と減少しています。

「60～63歳」の人の生活の状況では、1か月間の収入の状況について第1回調査と第5回調査の変化をみると、「収入あり」は、第1回77.3%、第5回89.7%で、収入の種類をみると、男女とも「公的年金」の割合が高くなり、夫婦のみの公的年金中心の生活に移っていることが分かります。

第1回調査から第5回調査までの同居者の構成



「60～63歳」の者の第1回調査および第5回調査の収入の有無・収入の種類（複数回答）



注: 1) 「60～63歳」の者を集計
2) 「60～63歳」の者を100とした割合